

米子川第一発電所 建設工事 安全祈願祭及び起工式



日時 | 平成29年12月19日(火) 13:30~

会場 | 須坂市大字米子字硯原

施主・設計・施工 | 株式会社 長野エネルギー開発

米子川第一発電所 建設工事
安全祈願祭神事式 次第

一、	開式				
一、	修祓				
一、	降神の儀				
一、	献饌				
一、	祝詞奏上				
一、	切麻散米				
一、	床鎮の儀				
	齋鎌	株式会社長野エネルギー開発	代表取締役	上田 正昭	
			取締役	谷津 和孝	
			取締役	新井 重夫	
	齋鉾	長野県	副知事	中島 恵理	
		長野県	県議会議員	村石 正郎	
		須坂市	市長	三木 正夫	
	齋鋤	協栄電気興業株式会社	専務取締役	松本 克幸	
		株式会社北條組	代表取締役	北條 將隆	
		ミツワヤンマー株式会社	代表取締役	渡辺 康博	
一、	玉串奉奠				
	齋主		神官	市川 明覚	
	施主	株式会社長野エネルギー開発	代表取締役	上田 正昭	
	来賓	長野県	副知事	中島 恵理	
		長野県	県議会議員	村石 正郎	
		須坂市	市長	三木 正夫	
		須坂市	市議会議員	関野 芳秀	
		須坂市	市議会議員	西澤えみ子	
		須坂市米子区	区長	竹前 清孝	
		千曲川漁業協同組合	代表理事組合長	古谷 秀夫	
		北の沢・城ヶ鼻水利組合	組合長	永田 栄一	
	技術支援	立命館大学	工学博士	井上 素行	
		全国小水力利用推進協議会	理事	松尾 寿裕	
		中部電気保安協会	保安課長	豊田 雄一	
	施工者	株式会社長野エネルギー開発			
		共同5社 代表として			
		株式会社北條組	代表取締役	北條 將隆	(敬称略)
一、	撤饌				
一、	昇神の儀				
一、	神酒杯戴				
一、	閉式				

米子川第一発電所 建設工事
起工式 次第

司会：株式会社長野エネルギー開発 取締役 渡辺 康博

- 一、 施主挨拶
株式会社長野エネルギー開発 代表取締役 上田 正昭
- 一、 事業説明
株式会社長野エネルギー開発 専務取締役 山本 博一
- 一、 来賓祝辞
長野県 副知事 中島 恵理
長野県 県議会議員 村石 正郎
須坂市 市長 三木 正夫
(敬称略)
- 一、 来賓紹介
- 一、 閉 会



事業紹介

BUSINESS INFORMATION

開発趣旨

地域の有効な自然資源である米子川の流水と地形を活用し、
地元企業の技術ポテンシャルを生かし
地産地消可能な小水力発電所の設置を計画。
開発に伴い、最大限地域に貢献できる事業とする。

基本理念

- ①「地域の強み」を最大限活用するため、地元企業のものづくり技術、大学の英知、産学の「地域の知」を集し、国が進める再生可能エネルギー政策に沿った、地域にしか出来ない開発モデルとして地域産業に貢献する。
- ②本取り組みを通じ、地域の共有資源である河川を利用することにより、河川及びその周辺の環境改善・保全や防災面において地域貢献することを目的とする。
- ③稼働後は、お子様などによる発電施設見学の実施により、地域との繋がりを強めるとともに環境教育に結びつけることとする。

予想される効果

流域及び地域の環境保全に貢献

鉱毒水の混入する河川水はPH3.23と強酸性を示し、農業用利水としても魚類の生育環境としても不適な状況にあります。しかし水の持つエネルギーを有効に活用することで、未活用な資源であった河川水が、有効資源として活用可能となります。
発電・売電事業を行うことにより、その事業より創出される収益の一部を還元し、流域及び地域の環境保全に寄与できます。

災害の予知に貢献

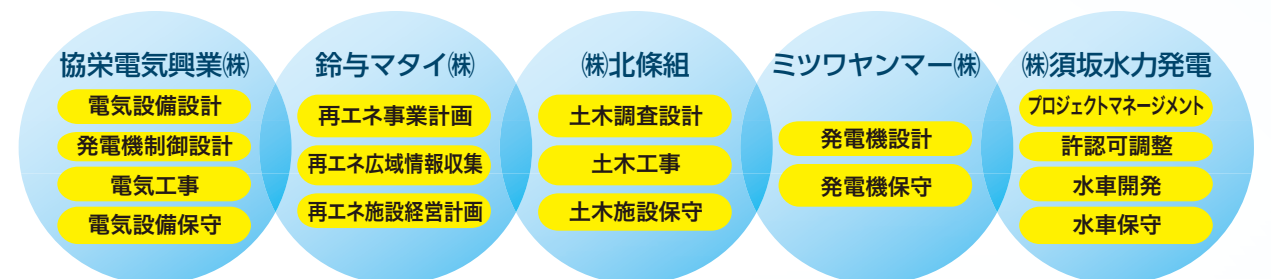
今回、砂防施設を利用させていただくことにより、道路などの環境が整備され、砂防施設点検のための作業動線が確保でき維持管理が容易となります。水力発電所施設維持管理の一環として、河川下流域の状況を日々確認することで、自然災害の発見予知を行うことができます。
一般廃棄物処分場跡地の維持管理についても、発電所の日常点検の中で確認することで、形質の異常や災害の発見予知を行うことができます。

新しい産業に貢献

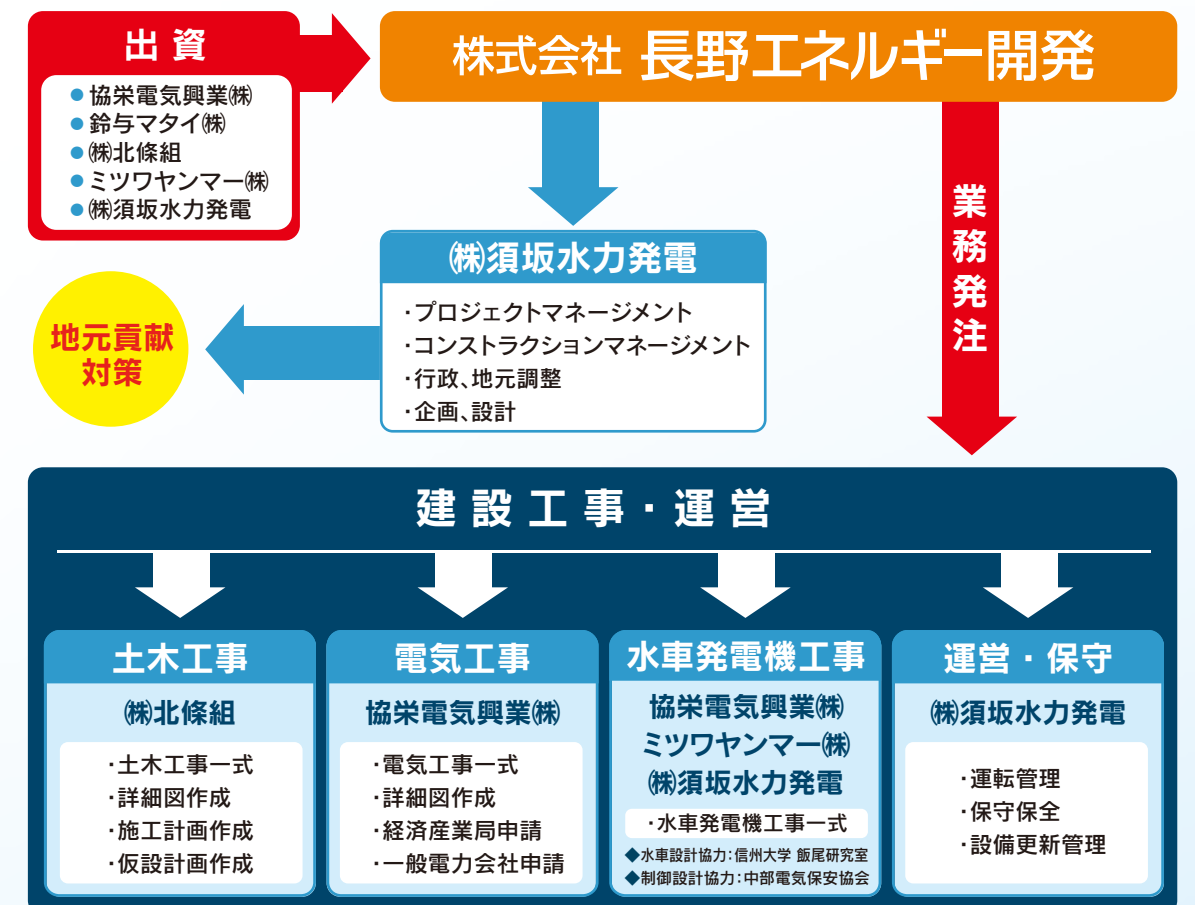
今回の事業は、小水力発電事業を目的とした地元企業コンソーシアムにて進めており、米子川第一発電所を契機に、長野県モデルとして小水力発電の普及を行います。

小水力発電事業開発を目的とした地元企業コンソーシアム

株式会社 長野エネルギー開発



米子川第一発電所事業推進体制



会社概要

COMPANY PROFILE

当 社 に つ い て

株式会社 長野エネルギー開発

TEL&FAX 026-214-3747

〒382-0024 長野県須坂市大字塩野御林跡1119番地2の21

株式会社長野エネルギー開発は、長野県内に本社を置く下記の5社が
米子川第一発電所の建設を目的として資本を拠出して
2017年6月1日に設立された会社です。

協栄電気興業株式会社(長野市)

自然エネルギーを活用した時代の要請に沿った事業に積極的に参加。
〒380-0913 長野県長野市川合新田3525 TEL 026-222-5656(代表)

鈴与マタイ株式会社(佐久市)

太陽光発電を取り扱って23年、国内屈指の販売実績を誇り次世代エネルギーに積極的に取り組む。
〒385-0051 長野県佐久市中込1丁目10-1 TEL : 0267-62-1111(代表)

株式会社北條組(長野市)

昭和6年創業、お客様に満足いただける仕事をモットーに地域に貢献する企業として活動。
〒381-0011 長野県長野市村山348-1 TEL 026-244-4347

ミツワヤンマー株式会社(長野市)

30年を超える発電設備のメンテナンス実績があり、発電設備の導入をサポート。
〒380-0928 長野県長野市若里4丁目18-28 TEL 026-227-2545

株式会社須坂水力発電(須坂市)

水車の設計製作を信州大学と協力して行うなど米子川ハイドロバレー計画を推進。
〒382-0024 長野県須坂市大字塩野御林跡1119番地2の21 TEL 026-285-9847

米子川 第一発電所 計画概要表

項 目			諸 元
水 系 ・ 河 川 名			一級河川 千曲川水系 百々川(米子川)
流 域 面 積			23.81km ²
河 川 流 量 (取 水 可 能 量) (m3/s)			最大水量4.35m ³ /s、豊水量0.74m ³ /s、平水量0.59m ³ /s、低水量0.52m ³ /s、 湧水量0.46m ³ /s (2004年～2015年の日流量の平均値)
発 電 所 位 置			長野県須坂市大字米子字硯原1212-2(百々川右岸)
取 水 口 位 置			長野県須坂市大字米子字乃たの沢1253-2(百々川右岸)
放 水 口 位 置			長野県須坂市大字米子字硯原1212-2(百々川右岸)
発 電 計 画	発 電 方 式		ダム水路式(流れ込み式)
	取 水 位		EL. 760.40m
	放 水 位		EL. 719.20m
	総 落 差		41.20m
	有 効 落 差		最大 34.63m
	使 用 水 量		最大 0.8m ³ /s 常用 0.46m ³ /s
	出 力		最大 198kW 常用 128kW
	有 効 電 力		198kW
	年 間 可 能 発 電 電 力 量		1,416MWh(平均年)
	設 計	ダ 形 式	重力式(砂防ダム)
備 概 要	ム	高 さ	28.00m
		堤 長	93.90m
	沈 砂 池		無し
	水 槽		無し
	水 導 水 路		無し
		水 圧 管 路	内径0.6m(SUS管・FRPM管)、延長 391.00m 内径0.4m×2条(SUS管)、延長 21.00m
	放 水 路	放 水 路 口	開放式矩形水路 延長 1.50m (放水路に含む)
		放 水 口	(放水路に含む)
	路	余 水 路	該当なし
		発 電 所	地上式
要	水 車 形 式		クロスフロー水車、2台
	発 電 機 種 類		三相交流誘導発電機、2台
河 川 利 用	河 川 維 持 流 量		0.00m ³ /s 下流沢流込 0.09m ³ /s (0.38m ³ /s/100km ²)
	河 水 利 用 率		92.10%
	流 量 設 備 利 用 率		92.10%
事 設 発 発 固 設 年 直 発	設 備 利 用 率		81.60%
	事 業 者		株式会社長野エネルギー開発
	設 計 者		株式会社長野エネルギー開発
	発 電 電 力 連 携 先		中部電力株式会社
	発 電 電 力 売 電 先		中部電力株式会社
	固 定 買 取 制 度		事業計画認定 取得済
	設 置 工 事 費		3億6千万円
	年 間 売 電 収 入 (予 測)		4千4百万円
	直 接 投 資 回 収 年		約8.2年
	発 電 量 規 模		一般世帯数 300世帯相当

株式会社 長野エネルギー開発

Nagano Energy Development

TEL & FAX **026-214-3747**

〒382-0024 長野県須坂市大字塩野御林跡1119番地2の21

www.nagano-energy.com